

科目名	コミュニケーション学						
科目名(英)	communication skill						
単位数	2		時間数	30時間		担当者	金子 希
実施年度	2020年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	理学療法学科夜間課程 1年						
授業概要	コミュニケーション理論を学ぶことで、幅広い意味を持つ“コミュニケーション”を 具体的に理解し自ら考え、物事を進めていくことができる。さらに他者との関わりの中 に発生する事柄に対して、多様な視点と他者の立場を想像しながら、深く思考する 力を身につける。						
授業形式	講義: △		演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					幅広い意味を持つ“コミュニケーション”を 具体的に理解することができる	
	○					“コミュニケーション”に関して自ら考え、物事を進めていくことができる	
	○		△			多様な視点と他者の立場を想像しながら、深く思考することができる	
テキスト・教材 参考図書	宮原哲:新版 入門コミュニケーション論 松柏社 参考文献: 末田清子・福田浩子:コミュニケーション学 松柏社 大森武子・大下静香・矢口みどり:仲間とみがく看護のコミュニケーションセンス 医歯薬出版(株) 山口美和:PT・OTのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	コミュニケーション概論 コミュニケーションとは何か				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	2	コミュニケーション基礎① メッセージの種類				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	3	コミュニケーション基礎② ノイズの影響				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	4	コミュニケーション基礎③ 様々な能力				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	5	対人コミュニケーション① 会話のスタート				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	6	対人コミュニケーション② 立場と認識				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	7	対人コミュニケーション③ リスニング				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	8	対人コミュニケーション④ 質問と連想				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	9	個人内コミュニケーションと自己概念				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	10	報告・連絡・相談				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	11	対立処理				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	12	パブリックコミュニケーション				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	13	応用① 医療現場とコミュニケーション				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	14	応用① 医療現場とコミュニケーション				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	15	まとめ				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
評価方法	(1)授業の中で行動習熟度を確認する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				70%
	コミュニケーション行動習熟度	◎	◎	◎	○		20%
	レポート	◎	○				10%
履修上の注意							

科目名	解剖学演習						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	30時間	担当者	小川 皓一	
実施年度	2020年度		実施時期	後期	実務家教員 担当科目	医師として病院勤務	
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部1年						
授業概要	内臓の構造を機能と関連づけて説明できる。感覚器と神経系の構造を機能との関連で説明できる。骨の立体構造を説明できる。実験動物で内臓・筋・神経の構造を説明できる。						
授業形式	講義: △		演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				感覚器の構造と名称を理解し、説明できる。	
	○	○				神経の解剖的構造を理解し、説明できる。	
	○	○				主な神経経路について理解し、説明できる。	
	○	○				演習により骨形態と組織について理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	PT・OT・ST のための解剖学 渡辺正仁(監修) 廣川書店 あたらしい人体解剖学アトラス 佐藤達夫(訳) メディカル・サイエンス・インターナショナル社 参考文献: ネット解剖学アトラス(第6版) 相磯貞和(訳) 南江堂 日本人体解剖学 上・下巻(第19版) 金子丑之助(原著) 南山堂 入門組織学 牛木辰男著 南江堂						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	内臓学演習①:男性生殖器系 内臓学演習②:女性生殖器系				課題プリントにて復習を行う。	
	2	内臓学演習③:内分泌系 内臓学演習④:人体の発生				課題プリントにて復習を行う。	
	3	感覚器系演習①:皮膚、味覚器、嗅覚器 感覚器系演習②:平衡・聴覚器				課題プリントにて復習を行う。	
	4	感覚器系演習③:視覚器 神経解剖学演習①:総論、髄膜、脳室系				課題プリントにて復習を行う。	
	5	神経解剖学演習②:神経系の発生、脊髄 神経解剖学演習③:脳(大脳)				課題プリントにて復習を行う。	
	6	神経解剖学演習④:脳(間脳、中脳、橋) 神経解剖学演習⑤:脳(延髄、小脳)				課題プリントにて復習を行う。	
	7	神経解剖学演習⑥:脊髄神経(頭神経、腕神経叢、胸神経) 神経解剖学演習⑦:脊髄神経(腰神経叢、仙骨神経叢)				課題プリントにて復習を行う。	
	8	神経解剖学演習⑧:脳神経(第Ⅰ脳神経~第Ⅵ脳神経) 神経解剖学演習⑨:脳神経(第Ⅶ脳神経~第Ⅻ脳神経)				課題プリントにて復習を行う。	
	9	神経解剖学演習⑩:自律神経系(交感神経系、副交感神経系) 神経解剖学演習⑪:伝導路(上行性伝導路)				課題プリントにて復習を行う。	
	10	神経解剖学演習⑫:伝導路(下行性伝導路) 感覚器・神経系のまとめ				課題プリントにて復習を行う。	
	11	骨学演習①:頭蓋、脊柱・胸郭を構成する骨				演習にて自己学習を進める	
	12	骨学演習②:上肢の骨、下肢の骨				演習にて自己学習を進める	
	13	組織学演習				演習にて自己学習を進める	
	14	動物形態学演習				動物解剖より解剖理解を図る。	
	15	肉眼解剖学実習					
評価方法	(1定期試験(筆記))を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意	身体解剖において、構造のイメージと名称の理解を自己学習において進めておくこと。						

科目名	生理学演習						
科目名(英)	Physiology ; Practice						
単位数	1		時間数	30時間		担当者	坂口 博信 大津 隆一
実施年度	2020年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部1年						
授業概要	本講義は実習をまじえながら、生理学の講義で学んだ生理学の知識をより深いものに することを目標にする。講義を受け教科書で勉強した知識は、実習の実験によって実 際に体験することによって、本当の知識として身につけることができる。さらに、実 習によって生理機能を計測し、実験データを処理し解析して、レポートを作成する方 法を学ぶ。						
授業形式	講義： △		演習： ○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	◎	◎	◎	◎		実習を通して、様々な機能を体得し説明できる	
テキスト・教材 参考図書	コメディカルのための生理学実習ノート 南江堂 参考文献：コメディカルのための生理学実習ノート 南江堂						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	電気生理の基礎				学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと	
	2	実習 運動神経伝導速度の測定(誘発筋電図)				実習した内容を復習し、実習につなげていくこと	
	3	レポート作成				実習した内容をレポートにまとめる	
	4	知覚と行動(脳の仕組み)				学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと	
	5	実習 随意運動の反応時間				実習した内容を復習し、実習につなげていくこと	
	6	レポート作成				実習した内容をレポートにまとめる	
	7	体性感覚				学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと	
	8	実習 体性感覚(2点識別・重量感覚)				実習した内容を復習し、実習につなげていくこと	
	9	実習 体性感覚(触圧覚・温度感覚)				学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと	
	10	レポート作成				実習した内容をレポートにまとめる	
	11	脳波 レポート作成				実習した内容を復習し、理解を深めレポートすること	
	12	心電図				学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと	
	13	心電図 レポート作成				実習した内容を復習し、内容をレポートにまとめる	
	14	呼吸量				学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと	
	15	呼吸量 レポート作成				実習した内容を復習し、内容をレポートにまとめる	
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				50%
	実習レポート	◎	◎				50%
履修上の注意							

科目名	運動学Ⅰ						
科目名(英)	KINESIOLOGY						
単位数	2		時間数	60時間		担当者	仲吉功治
実施年度	2020		実施時期	後期		実務家教員 担当科目	病院にて理学療法士として勤務
対象学科・学年	理学療法学科 夜間1年						
授業概要	基本的な身体運動基礎の理解より開始し、骨格・関節・靱帯の構造を理解する。 理学療法士の評価治療介入の基礎となる身体運動の知識(上肢)を修得し、上肢の各関節運動を各自で説明 できることを目標とする。また、講義内容に対する理解度を国家試験問題も含め、確認を行う。						
授業形式	講義:	○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				身体運動の方向と運動名称について説明できる。	
	○	○				基本的な骨格系の構造や名称を説明できる。	
	○	○				上肢各関節の構造・運動について説明できる。	
	○	○				該当する範囲の国家試験が理解できる。(70%以上)	
テキスト・教材 参考図書	1)中村隆一 他 著:基礎運動学 第6版 補訂 2)山崎敦 著:PTOTビジュアルテキスト 運動学 第1版 3)河合良訓 監:骨単(語源から覚える解剖学英単語集)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション 運動学の概要 (運動用語の理解、運動面と軸との関係)				シラバス内容を事前に確認しておくこと	
	2	運動の基礎 筋の起始停止 作用の理解 関節構成体 関節形態と運動方向の関係 主な関節の関節形態の確認				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	運動学 概要と基礎の復習 ここまでのテスト 骨格系①:総論、頭蓋骨 骨格系②:脊柱・胸郭				これまでの授業資料を復習しておくこと 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	骨格系③:上肢帯の骨 骨格系④:下肢帯の骨				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	骨格系の復習 ここまでのテスト 関節と靱帯:総論 上肢帯・下肢帯の連結				これまでの授業資料を復習しておくこと 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	肩関節 肩甲上腕関節 肩関節の概要(ショルダーコンプレックス)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	広義の肩関節 各関節の形態と特徴 肩甲上腕リズム				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	肩関節のまとめと復習 肩関節のテスト				これまでの授業資料を復習しておくこと 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	肘関節 肘関節の解剖形態 各関節の形状と安定要素 前腕 前腕の運動を導く関節の理解 安定要素と運動要素				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	肘、前腕のまとめと復習 肘前腕のテスト				これまでの授業資料を復習しておくこと 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	手関節 手関節の関節構造の理解 安定要素と運動要素				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	手指の動きと 腱鞘の理解 手関節と手指のまとめとテスト				これまでの授業資料を復習しておくこと 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	国家試験問題				これまでの授業資料を復習しておくこと	
	14	国家試験問題				これまでの授業資料を復習しておくこと	
15	全体復習とまとめ				これまでの授業資料を復習しておくこと		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				70%
	各期間でのテスト	◎	◎				30%
履修上の注意	身体の運動への興味を持つ事。基本的身体構造を自ら覚える取り組みが必要。						

科目名		基礎医学講座										
科目名(英)												
単位数	1				時間数		30時間		担当者		峰岡哲哉 松岡美紀 仲吉功治	
実施年度	2020年度				実施時期		前期		実務家教員 担当科目		理学療法士として病院に勤務	
対象学科・学年		理学療法学科 夜間1年										
授業概要		国家試験問題を実際に解きながら、その内容を一つ一つ理解する。 前期解剖学・生理学の復習										
授業形式		講義： ○			演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標						
	○	○				国家試験問題を通して、骨、関節の構造、機能を理解できる。						
	○	○				国家試験問題を通して、四肢体幹の構造・機能を理解できる						
	○	○				国家試験問題を通して神経構造・機能が理解できる。						
	○	○				国家試験問題を通して中枢神経構造・機能が理解できる。						
テキスト・教材 参考図書												
授業計画	回数	授業項目・内容							コメント			
	1	オリエンテーション							国家試験に必要な知識、勉強の仕方について			
	2	運動機能 骨関節① 骨と関節の構造							国家試験問題を解き、説明しあう			
	3	運動機能 骨関節① 上肢の骨							国家試験問題を解き、説明しあう			
	4	運動機能 骨関節① 下肢の骨							国家試験問題を解き、説明しあう			
	5	運動機能 骨関節① 体幹の骨							国家試験問題を解き、説明しあう			
	6	動物機能 中枢神経系① 神経の基本構造、神経伝導の原則							国家試験問題を解き、説明しあう			
	7	動物機能 中枢神経系② 大脳について							国家試験問題を解き、説明しあう			
	8	動物機能 中枢神経系③ 中脳・橋・延髄について							国家試験問題を解き、説明しあう			
	9	動物機能 中枢神経系③ 大脳基底核・辺縁系について							国家試験問題を解き、説明しあう			
	10	動物機能 中枢神経系④ 脊髄について							国家試験問題を解き、説明しあう			
	11	動物機能 中枢神経系⑤ 錐体路について①							国家試験問題を解き、説明しあう			
	12	動物機能 中枢神経系⑥ 錐体路について②							国家試験問題を解き、説明しあう			
	13	動物機能 中枢神経系⑦ 上行性伝導路について①							国家試験問題を解き、説明しあう			
	14	動物機能 中枢神経系⑧ 上行性伝導路について②							国家試験問題を解き、説明しあう			
	15	全体復習＋試験対策							試験範囲の説明だけではなく、試験対策につながるように全体の復習をする。			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験(筆記)	◎		◎								100%
履修上の注意												

科目名	一般臨床医学						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	30時間		担当者	山田 茂憲
実施年度	2020年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目	医師として病院勤務
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部1年						
授業概要	医療現場において必要な、救命救急医療および外科、脳外科の総論について学習し、また各論において学習するもの以外の、皮膚科、泌尿器科、婦人科・産科、眼科、耳鼻 咽喉科、その他老年期医療における特殊な問題について幅広い知識を身につけることを目標とする。						
授業形式	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		医療人である前に社会人である自覚を持つことができる。	
	○	○		○		医学の歴史と体系を説明できる。	
	○	○		○		医療人として倫理観を持つことができる。	
	○	○		○		疾病の構造を説明できる。	
	○	○		○		診断の意義を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	「PT・OTのための一般臨床医学」 医歯薬出版(株)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	医学の歴史と体系1： 医学の起源、古代の医学				教科書の予習をしておく。	
	2	医学の歴史と体系2： 中世の医学、近世の医学				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	3	医学の歴史と体系3： 20世紀以降の医学				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	4	医学の歴史と体系4： 我が国における医学の発達のすがた				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	5	医学の倫理1： 医学概論で何を学ぶか、医学とは何か				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	6	医学の倫理2： 人間の生命を考える、病気と医学				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	7	医学の倫理3： 医学とリハビリの実践のために、死への対応				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	8	生体の恒常性と健康： 健康・病気・医学の体系				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	9	疾病構造の変化と医学の変貌： 新しい医療システム				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	10	病気と診断学1： 病気の原因				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	11	病気と診断学2： 病気による身体の変化				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	12	病気と診断学3： 病気の診断				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	13	病気と治療学： 病気の治療とリハビリテーション				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	14	救急医療・疾病予防： 病気の予防				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	臨床心理学						
科目名(英)	Clinical psychology						
単位数	1		時間数	30時間		担当者	井上 慎司
実施年度	2020年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部1年						
授業概要	・心理学・臨床心理学の基礎的な概念や理論を学ぶ。 ・心理アセスメントの基本的な前提、方法、解釈法について理解を深める。 ・性格とパーソナリティ、発達、発達段階の定義と分類について理解する。 ・心理臨床の基本的な想定、傾聴や受容など、心理療法に基礎についての理解を深める。						
授業形式	講義： ○		演習：		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		対象者への援助の方法やその実践について基礎的な知識・技法を説明できる。	
	○	○		○		臨床心理学の知識を臨床抱擁する為の方法を説明できる。	
	○	○		○		他者や自分自身の振り返る機械とし、自己認識した内容を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	『心理学【カレッジ版】』 山村豊・高橋一公 医学書院 参考文献：川瀬正裕・松本真理子・松本英夫 心とかかわる臨床心理[第3版]ナカニシヤ出版						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	心理学とは何かー 心とは何か、対人援助と心理学、心理学の研究法					教科書の予習をしておく。
	2	臨床心理学とは何かー 歴史					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。
	3	記憶ー 記憶のメカニズム、短期記憶と作業記憶					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。
	4	思考と知能ー 思考とは何か、知能とは何か、知能検査					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。
	5	学習ー 古典的条件づけ、オペラント条件づけと学習理論					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。
	6	動機づけー 感情とは、感情のメカニズム、動機づけの理論					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。
	7	性格ー 性格の理論、人格検査					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。
	8	発達①ー 各発達段階の捉え方、乳幼児期、児童期					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。
	9	発達②ー 青年期、成人期、アイデンティティ、中年期、高齢期					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。
	10	心理療法理論①ー 古典的精神分析療法					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。
	11	心理療法理論②ー 来談者中心療法など					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。
	12	心理臨床の基礎ー 心理臨床と臨床心理学、心の適応と不適応、精神疾患の分類					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。
	13	医療領域における心理的な援助①ー 医療職と対人援助、対人援助の機能					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。
	14	医療領域における心理的な援助②ー 患者の心理特性、医療従事者の心理					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意	国家試験の過去問に目を通し、どの程度の心理学・臨床心理学的な知識が求められるのかをひとまず 理解したうえで、医療従事者として、さらなる心理的な理解を深めることが望ましい。						

科目名	地域包括ケアシステム学						
科目名(英)	Regional Comprehensive Care System Studies						
単位数	2		時間数	60時間		担当者	
実施年度	2020年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	理学療法学科 1年						
授業概要	介護保険を含んだ地域特性に応じた地域包括ケアシステムにおける制度の中で、医療・介護・福祉・予防及び自立支援・就労支援等での分野の理学療法の評価と支援の実践について学習する。また、地域理学療法を実践するための因子分析の概要と実践を学ぶ。						
授業形式	講義： ○		演習： 実習：		実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				地域包括ケアシステムの中での地域理学療法の理念と役割を説明することができる。...	
	○	○				因子分析のプロセスを説明できる。	
	○	○				神経内科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。	
	○	○				模擬症例の地域理学療法プログラムを、因子分析を通して立案することができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				コメント	
	1	オリエンテーション 地域包括ケアシステムの概要				試験範囲提示 教科書で予習しておく。	
	2	地域包括ケアシステムの実現に向けて				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	3	因子分析について				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	4	他職種の専門職種としての視点と理学療法との関わり				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	5	他職種の専門職種としての視点と理学療法との関わり				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	6	通所リハビリテーションにおける因子分析の実際				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	7	前半内容の復習・中間テスト				前半の内容が理解できているか板書で復習する。 そのうえで中間テストを実施して内容理解度を確認	
	8	因子分析演習				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	9	因子分析ト演習				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	10	事例検討				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	11	事例検討				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	12	他職種事例検討会				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	13	国家試験問題				授業内容を踏まえた国家試験問題を選出し、解説を行う。	
	14	国家試験問題				授業内容を踏まえた国家試験問題を選出し、解説を行う。	
	15	全体復習＋試験対策				試験範囲の説明 試験対策につながるよう全体の復習	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○				80%
	中間テスト	◎	◎				10%
	レポート	○	◎		◎		10%
履修上の注意							

科目名	評価学Ⅰ										
科目名(英)	Evaluation of Physical TherapyⅠ										
単位数	2			時間数	60時間		担当者	宇戸 友樹			
実施年度	2020年度			実施時期	後期		実務家教員 担当科目	理学療法士として 病院勤務			
対象学科・学年	理学療法学科 夜間1年										
授業概要	①理学療法評価の項目と内容(意味)と必要性について述べ、各検査・測定項目について正確に実施することができるようになる。②測定結果よりその障害像について考察することができるようになる。										
授業形式	講義: △		演習: ○		実習:		実技: ○		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○	○				対象者の何を評価するのかを知り、理学療法評価の意味、理学療法プロセスの流れを理解する。					
	○	○	○			情報収集の目的と内容を知り医療面接ができるようになる。					
	○	○	○			バイタルサインの目的と内容を知り正確な測定ができるようになる。					
	○	○	○			形態測定の目的と内容を知り正確な測定ができるようになる。					
	○	○	○			関節可動域測定の目的と内容を知り正確な測定ができるようになる。					
テキスト・教材 参考図書	教科書:1)潮見泰臈, 下田信明:リハビリテーション基礎評価学第2版. 羊土社, 2019. 参考文献:1)金子丑之助 他:日本人体解剖学(上巻)南山堂, 2003. 2)基礎運動学 第6版 齋藤 宏・中村隆一著 医歯薬出版										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	評価総論① オリエンテーション 評価とは・・・検査・測定について考える					教科書の予習をしておく。				
	2	評価総論② 検査・測定の意義・目的と評価の構成要素					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。				
	3	生理機能評価(バイタルサイン)① 基本的知識と測定する意味を考える					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめと実技練習をしておく。				
	4	生理機能評価(バイタルサイン)② バイタルサインの測定方法と記録					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめと実技練習をしておく。				
	5	形態測定① 形態測定とは 骨の触察(ラウンドマークの確認)					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめと実技練習をしておく。				
	6	形態測定② 形態測定(四肢長)					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめと実技練習をしておく。				
	7	OSCE(客観的臨床技能試験) 総論					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめと実技練習をしておく。				
	8	OSCE(客観的臨床技能試験 バイタル・形態測定)					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめと実技練習をしておく。				
	9	関節可動域測定 ① (解剖学的知識、関節構造、運動学の知識の統合)					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめと実技練習をしておく。				
	10	関節可動域測定 ②					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめと実技練習をしておく。				
	11	関節可動域測定 ③					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめと実技練習をしておく。				
	12	関節可動域測定 ④					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめと実技練習をしておく。				
	13	OSCE(客観的臨床技能試験) 総論					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめと実技練習をしておく。				
	14	OSCE(客観的臨床技能試験:関節可動域測定)					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめと実技練習をしておく。				
	15	まとめ					今までの総復習をしておく。				
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)OSCE技能試験を実施する。 (4)定期試験(筆記・実技)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験(筆記・実技)	◎	◎	◎			80%				
	小テスト	◎	◎				20%				
履修上の注意	実技試験も定期試験に含む。										